

2. 男女の別（女性 100 に対する男性の数）

表 11 で熊本市の性比をみると、大正 9 年の 108.7 を最高にその後次第に低下しており、平成 17 年では、89.4 まで低下している。

大正 14 年までは男が多かったものが、昭和 5 年に性比が逆転し、昭和 15 年には、92.0 と急激に低下しており、これは兵士としての動員が影響していると考えられる。

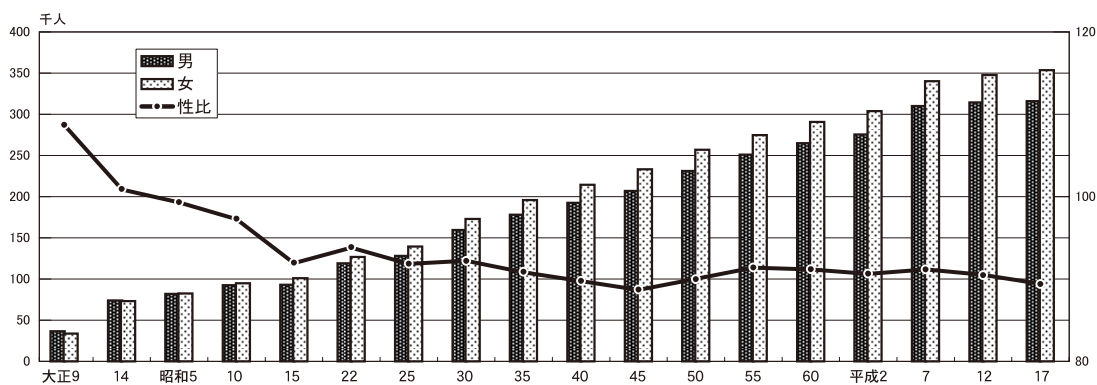
昭和 22 年には海外からの復員、引き揚げなどにより、93.9 まで上昇したが、そののちは昭和 45 年の 88.7 まで漸減が続いた。昭和 50 年、55 年は上昇に転じたが、その後はおおむね減少傾向を示しており、全国の数字を見ても同様の傾向を示している。これは女性の平均寿命の伸びが関係していると考えられる。

表 11 男女別人口の推移（当時人口）

（単位：人）

年 次	熊 本 市			熊本市 女 100人につき	熊本県 女 100人につき	全国 女 100人につき
	総 数	男	女			
大 正 9 年	70,388	36,661	33,727	108.7	95.5	100.5
14 年	147,174	73,923	73,251	100.9	96.9	101.1
昭 和 5 年	164,460	81,957	82,503	99.3	96.3	101.1
10 年	187,382	92,418	94,964	97.3	96.3	100.7
15 年	194,139	93,013	101,126	92.0	95.1	100.1
22 年	245,841	119,024	126,817	93.9	—	—
25 年	267,506	128,067	139,439	91.8	93.4	96.3
30 年	332,493	159,500	172,993	92.2	93.7	96.5
35 年	373,922	178,014	195,908	90.9	91.5	96.5
40 年	407,052	192,538	214,514	89.8	90.0	96.4
45 年	440,020	206,854	233,166	88.7	88.5	96.6
50 年	488,166	231,188	256,978	90.0	89.5	97.0
55 年	525,662	251,011	274,651	91.4	90.6	96.9
60 年	555,719	265,037	290,682	91.2	90.5	96.7
平 成 2 年	579,306	275,424	303,882	90.6	89.6	96.5
7 年	650,341	310,118	340,223	91.2	89.8	96.2
12 年	662,012	314,455	347,557	90.5	89.6	95.8
17 年	669,603	316,048	353,555	89.4	88.9	95.3

図 12 男女別人口及び性比の推移（性比：女＝100）



3. 年齢別人口

(1) 年齢構成の推移

ますます進む人口の高齢化

平成 17 年の人口を年齢（3 区分）別にみると、0～14 歳の年少人口が 99.9 千人、15～64 歳の生産年齢が 444.8 千人、65 歳以上の老年人口が 123.9 千人で、全人口に占める割合はそれぞれ、14.9%、66.4%、18.5%となっている。

平成 12 年の年齢 3 区分構成と比較すると、年少人口が△0.9 ポイント、生産年齢人口は、△1.5 ポイントと低くなった反面、老年人口は 2.2 ポイント高くなった。

昭和45年度以降の年齢3区分別割合の推移をみると、この35年の間に年少人口は△8.1ポイントとなり、老年人口は11.5ポイントの上昇となり、ますます老年人口の割合が大きくなった。

老年化指数は昭和45年の4倍

表13の平成17年の年齢構成指数をみると、年少人口指数は22.5、老年人口指数は27.9、老年化指数は124.0となっている。

年少人口指数及び老年人口指数は、生産年齢人口に対する扶養負担度を示す数値として、老年化指数は人口高齢化の程度を測るものとして使われているが、熊本市を全国平均（年少人口指数20.8、老年人口指数30.5、老年化指数146.5）と比較すると、年少人口指数は熊本市が1.7高いが、老年人口指数は2.6、老年化指数は22.5低くなっており全国平均より熊本市の生産年齢人口が多いことがわかる。

しかし、人口の高齢化が急速に進行しており、昭和45年と比べると老年人口指数は約2.8倍、老年化指数は約4.0倍となっている。

表12 年齢（3区分）構成の推移

年次	実数（人）				構成比（％）		
	総数	0～14歳	15～64歳	65歳以上	0～14歳	15～64歳	65歳以上
昭和45年	449,254	103,128	314,886	31,240	23.0	70.1	7.0
男	211,322	52,944	145,414	12,964	25.1	68.8	6.1
女	237,932	50,184	169,472	18,276	21.1	71.2	7.7
昭和50年	488,166	113,008	336,915	38,243	23.1	69.0	7.8
男	231,188	57,959	157,407	15,822	25.1	68.1	6.8
女	256,978	55,049	179,508	22,421	21.4	69.9	8.7
昭和55年	525,662	118,429	360,945	46,154	22.5	68.7	8.8
男	251,011	60,748	171,351	18,832	24.2	68.3	7.5
女	274,651	57,681	189,594	27,322	21.0	69.0	9.9
昭和60年	555,719	119,236	381,518	54,865	21.5	68.7	9.9
男	265,037	61,406	181,967	21,604	23.2	68.7	8.2
女	290,682	57,830	199,551	33,261	19.9	68.6	11.4
平成2年	579,306	111,981	399,413	66,003	19.3	68.9	11.4
男	275,424	57,664	191,115	25,461	20.9	69.4	9.2
女	303,882	54,317	208,298	40,542	17.9	68.5	13.3
平成7年	650,341	111,558	448,129	89,951	17.2	68.9	13.8
男	310,118	57,284	217,048	35,334	18.5	70.0	11.4
女	340,223	54,274	231,081	54,617	16.0	67.9	16.1
平成12年	662,012	104,473	449,211	107,931	15.8	67.9	16.3
男	314,455	53,480	217,442	43,293	17.0	69.1	13.8
女	347,557	50,993	231,769	64,638	14.7	66.7	18.6
平成17年	669,603	99,881	444,754	123,878	14.9	66.4	18.5
男	316,048	51,147	214,409	49,854	16.2	67.8	15.8
女	353,555	48,734	230,345	74,024	13.8	65.2	20.9

図13 年齢（3区分）構成の推移（昭和45年～平成17年）

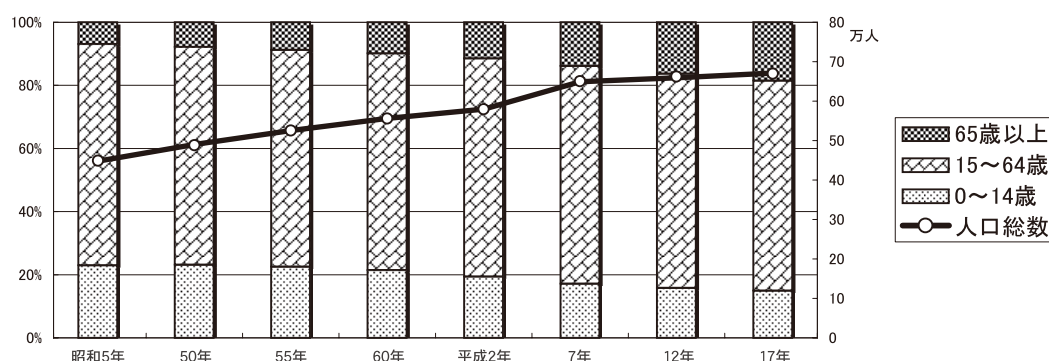


表13 年少、老年人口指標及び老年化指数の推移

(当時人口)

年次	年少人口指数①			老年人口指数②			老年化指数③		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
昭和45年	32.8	36.4	29.6	9.9	8.9	10.8	30.3	24.5	36.4
50年	33.5	36.8	30.7	11.4	10.1	12.5	33.8	27.3	40.7
55年	32.8	35.5	30.4	12.8	11.0	14.4	39.0	31.0	47.4
60年	31.3	33.7	29.0	14.4	14.4	16.7	46.0	35.2	57.5
平成2年	28.0	30.2	26.1	16.5	13.3	19.5	58.9	44.2	74.6
7年	24.9	26.4	23.5	20.1	16.3	23.6	80.6	61.7	100.6
12年	23.3	24.6	22.0	24.0	19.9	27.9	103.3	81.0	126.8
17年	22.5	23.9	21.2	27.9	23.3	32.1	124.0	97.5	151.9

注) ①=年少人口÷生産人口×100 (生産年齢人口の年少者扶養負担度を示す指標)

②=老年人口÷生産人口×100 (生産年齢人口の老人扶養負担度を示す指標)

③=老年人口÷年少人口×100 (人口年齢化の程度を測る指標)

(2) 平均年齢

熊本市の平均年齢をみると、41.6歳(男39.8歳、女43.3歳)である。これを全国平均43.3歳(男41.9歳、女44.7歳)及び熊本県平均44.7歳(男42.6歳、女46.5歳)と比べると、いずれも下回っている。

年齢中位数をみてみると、熊本市は40.8歳(男38.6歳、女42.7歳)で全国43.3歳(男41.6歳、女45.0歳)、熊本県46.0歳(男43.8歳、女47.9歳)で、同じくいずれも下回っている。

(3) 人口ピラミッド

図8は、熊本市の人口の年齢構成を図に示した「人口ピラミッド」である。50歳以上では、釣鐘型になっているが、それより下の年齢は複雑な形をしており、第1次ベビーブーム、第2次ベビーブームの年齢層で突出している。

図14 人口ピラミッド

(平成17年10月1日現在)

